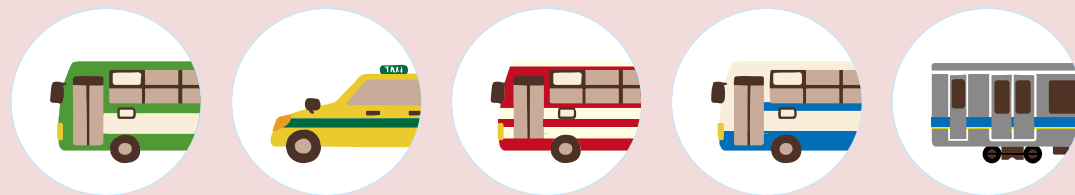


# 滝沢市地域公共交通網形成計画 の施策への取組み状況について



## 〈 第 9 回滝沢市地域公共交通会議 〉

平成30年2月9日（金） ビッググループ滝沢

滝 沢 市  
都 市 政 策 課

滝沢市 営業係長

ちやんぼん



# 1 公共交通利用向上プロジェクト

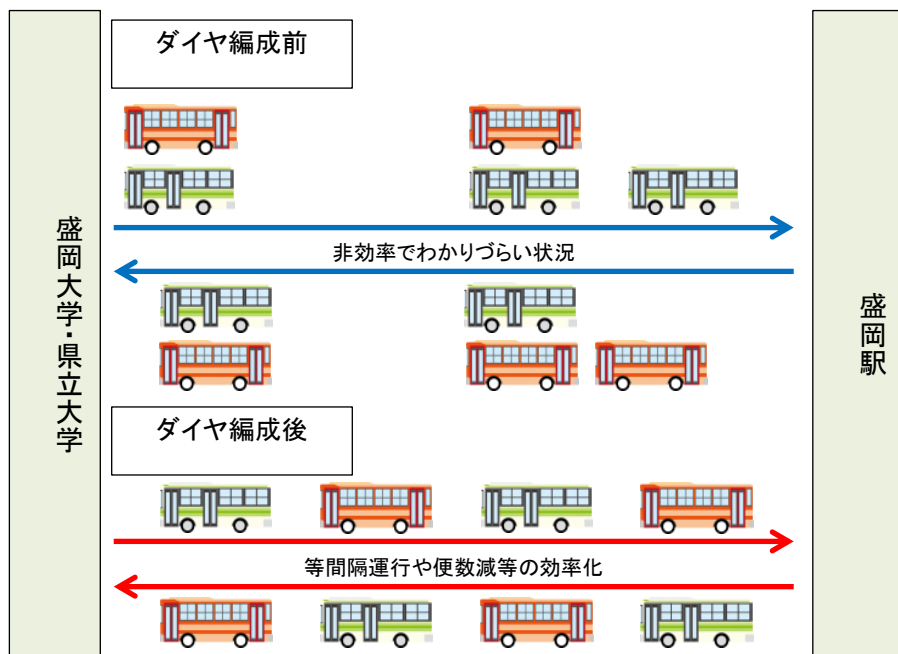
[施策1-1] 地域間幹線軸の品質・サービスの向上

① 市内主要拠点と隣接市町を結ぶ路線バスのサービス充実



## ・バス事業者間の連携・調整したダイヤ編成（巣子地区）

岩手県交通バス（厨川中央線、巣子箱清水線、巣子盛岡大学線）と岩手県北バス（巣子県立大学線、はんのき県立大学線、滝沢駅線、県立大学線）が同一区間を運行しており、ダイヤ調整も行っていない



▲新ダイヤ編成のイメージ図



巣子地区の住民や大学生の利便性を考慮した運行路線の再編や等間隔運行などについて検討を行う

# 1 公共交通利用向上プロジェクト

[施策 1 - 1] 地域間幹線軸の品質・サービスの向上

## ② 拠点形成の変化に合わせた経路の見直し



### ・ 滝沢営業所発の路線バスの一部再編（市役所付近経由へ）

滝沢営業所発の岩手県交通バス（青山町線）の一部をビッグルーフ滝沢  
経由に運行経路の見直しを行い、さらにはビッグルーフ滝沢の閉館時刻や  
市役所の開庁時刻を考慮したダイヤ編成を行う【岩手県交通と協議中】



▲ 運行経路の見直しイメージ

課題となっていた元村地区  
（人口集中地区）から市  
役所周辺への足が確保さ  
れるとともに、ビッグルーフ滝  
沢へ直接乗り入れることによ  
り利便性が向上。さらには  
中心拠点形成の公共交通  
軸の一部を担うものとなる

# 1 公共交通利用向上プロジェクト

〔施策1-2〕市内移動における利便性向上

②小さな交通需要に対応した交通サービスの検討



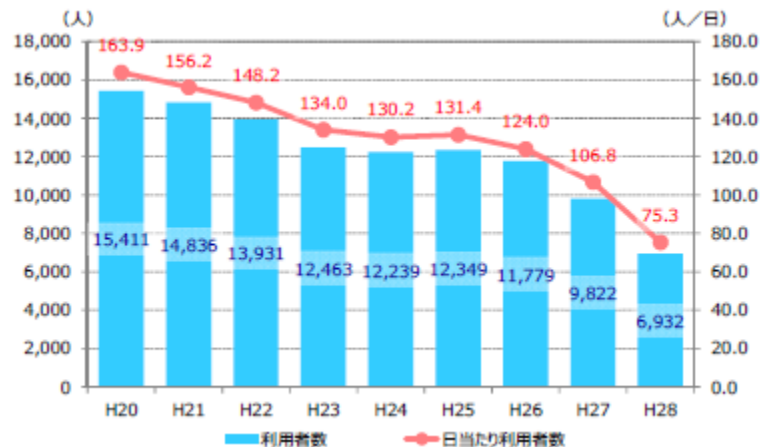
## ・福祉バスを再編した効率的な（仮称）市民バスの運行

平成26年度からバス事業者や有識者を交え、福祉バスを再編したより利便性の高い市内幹線バス網整備事業について検討

【莫大な運行経費→滝沢市財政構造改革により事業凍結】

福祉バスの利用者が年々減少（マイカー移動に転換）  
さらに、お山の湯閉館（平成28年12月）で利用者が減少

半減



▲福祉バス年度別利用者の推移

現行福祉バスの利用状況や睦大学の講座受講状況などの実態をよく把握し、より効率的な運行体系への見直しが必要

⇒ 平成31年度から（仮称）市民バスを運行することについて検討

## 2 公共交通の認知度向上プロジェクト

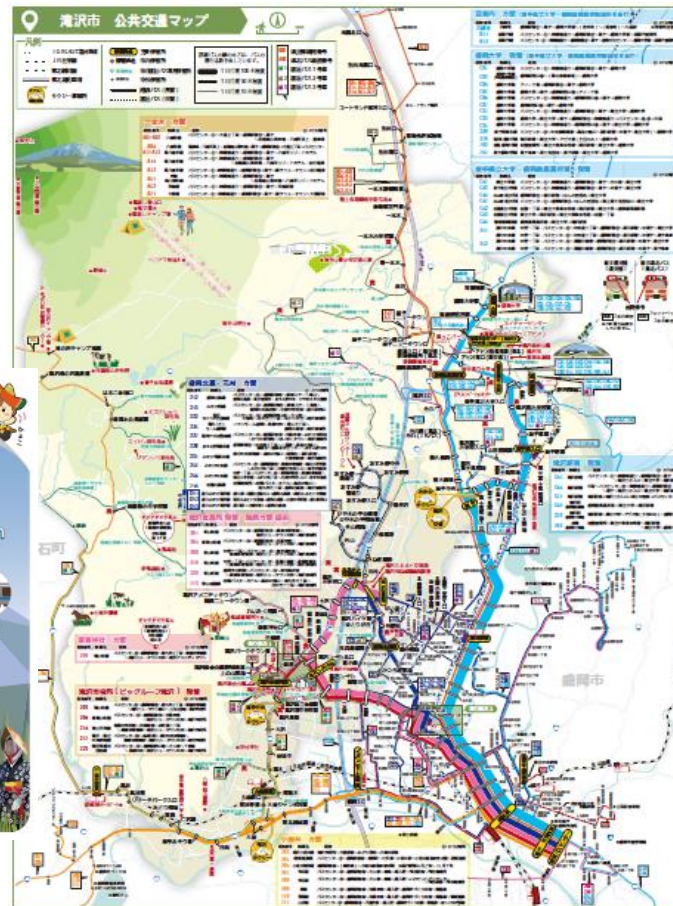
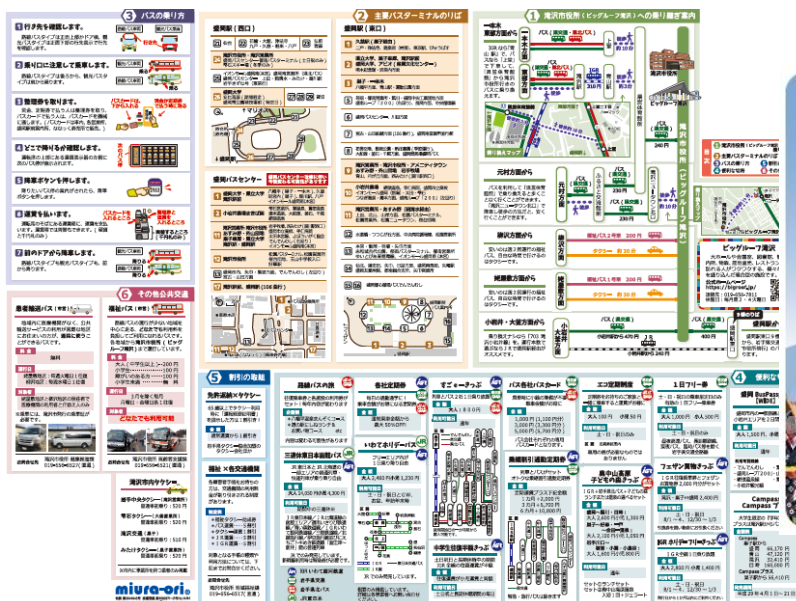
〔施策2-1〕情報発信による認知度向上

### ①公共交通の案内・情報発信ツールの作成



## ・「滝沢市公共交通マップ」の更新

平成29年5月に市内全戸及び  
主要施設などに配布（約3万部）  
⇒ 今後はさらにわかりやすいマップ  
に改善し更新していく



▲滝沢市公共交通マップ

## 2 公共交通の認知度向上プロジェクト

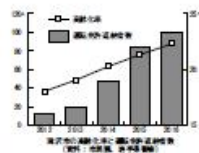
[施策2-1] 情報発信による認知度向上

### ① 公共交通の案内・情報発信ツールの作成



## ・「広報たきざわ」掲載による公共交通の情報発信

平成29年11月号「広報たきざわ」の巻頭ページの特集で「公共交通とマイカーの限界」と題して全市民に公共交通の現状、今後のあるべき姿、網形成計画策定などについて情報を発信した



Public transportation  
**公共交通とマイカーの限界**  
車を運転できなくなったときバスは存続しているのか？

### 滝沢市地域公共交通網形成計画

◆基本方針（日給つばね利用を前提）  
誰もが幸福を実現できる暮らしを支え、住民とともに考え・育てる公共交通  
～持続可能な姿・あり方を模索し、まちづくりと連携し「コンパクトネットワーク」を構築～

基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4
①公共交通の利便性向上プロジェクト 施策1-1 生活圏手帳の活用・サービス向上 施策1-2 地元活動における利便性向上	②公共交通の認知度向上プロジェクト 施策2-1 情報発信による認知度向上 施策2-2 イベント実施等による認知度向上	③公共交通の確保の確保プロジェクト 施策3-1 交通の確保による利便性向上 施策3-2 利用しやすい交通体系の構築	④多様な主体と連携・協働プロジェクト 施策4-1 民間公共交通に対する関係構築 施策4-2 官民・産学による連携づくり

1. 公共交通って何？  
2. 公共交通の危機  
3. マイカーの普及と公共交通の衰退  
4. 公共交通は「何」で良いのか？

▲「広報たきざわ」平成29年11月号に掲載（特集）

## 2 公共交通の認知度向上プロジェクト

[施策2-1] 情報発信による認知度向上

### ① 公共交通の案内・情報発信ツールの作成



## ・公共交通に関する「ちやくぽん」の新デザイン作成

滝沢市の営業係長であり、市の公認キャラクターである「ちやくぽん」と公共交通（※今回は路線バス）がコラボした新デザインを作成



▲「ちやくぽん」新デザイン（素案）

## 2 公共交通の認知度向上プロジェクト

[施策2-1] 情報発信による認知度向上

### ② スマートフォン等を活用した情報発信



## ・滝沢ナビ（スマートフォンアプリ）を活用した公共交通に関する情報発信



ダウンロードしてね！

滝沢市の情報掲載アプリ「滝沢ナビ」に“公共交通マップ”のコンテンツを新規追加（※平成30年春にリリース予定）



▲滝沢ナビ・スマートフォン画面



## 2 公共交通の認知度向上プロジェクト

[施策2-2] イベント実施等による認知度向上

① 児童・生徒等を対象とした乗り方教室等の開催



### ・バスの乗り方教室の開催

小学生等の次期利用者層を中心にバスの乗り方の体験やイベント等を実施し、新規利用への転換や公共交通に親しみを持ってもらおう



▲バスの乗り方教室【バスの日まつり2017（盛岡市）】

平成30年8月5日（日）  
にビッグルフ滝沢で「バスの  
乗り方教室」を開催予定



ビッグルフ滝沢「防災広場」で開催

## 2 公共交通の認知度向上プロジェクト

〔施策2-2〕イベント実施等による認知度向上

### ②パッケージサービス・企画乗車券等の連携サービスの実施



## ・（仮称）チャグバスの運行〈観光連携〉

公共交通と密接な関係にある観光事業（チャグチャグ馬コ）とタイアップ。目に留まるデザインに装飾した（仮称）チャグバスを期間限定で運行し、チャグチャグ馬コを周知。観光客の増大と公共交通の利用促進を図る【バス事業者と協議中】



▲【参考】川崎市バス「ハロウィンバス」



▲（仮称）チャグバス車窓デザインイメージ

### 3 公共交通の環境改善プロジェクト

[施策3-1]交通拠点整備による利便性向上

①主要拠点の交通環境の強化・待合い環境の改善



## ・市役所及びビッグルーフ滝沢におけるバスカード販売

岩手県交通バス、岩手県北バスの両バスカードを市役所及びビッグルーフ滝沢で販売し、バスの利用促進を図る【バス事業者と協議中】



岩手県交通バス



岩手県北バス

▲バスカード

### 3 公共交通の環境改善プロジェクト

[施策3-1]交通拠点整備による利便性向上

②多言語化・カラーリング等のわかりやすい案内・標識へ改善



## ・路線バス（青山町線系統）のわかりやすい目的地表示への改善

岩手県交通バス（青山町線系統）の主なバスの方向幕表示は、

**滝沢市役所**

（滝沢総合公園東口）

OR

**滝沢営業所**

（滝沢ふるさと交流館）

文字数が一緒で「滝沢○○所」の○○が異なるだけ。よく間違えるのが市役所に行きたいのに営業所行きのバスに乗ってしまった・・・  
また、ビッグルーフ滝沢がオープンし、バス利用者からの問合せもある



**わかりやすい目的地表示（方向幕表示）に改善**

例えば、「滝沢市役所（ビッグルーフ滝沢）」と「滝沢ふるさと交流館（滝沢営業所行）」などの表示 **【岩手県交通と協議中】**

### 3 公共交通の環境改善プロジェクト

[施策3-1]交通拠点整備による利便性向上

②多言語化・カラーリング等のわかりやすい案内・標識へ改善



## ・バス停留所名称の統一（改善）

同じ場所に設置されている各バス事業者のバス停留所名が異なる  
《バス停留所名》

- ・分れ南〈岩手県北バス〉 ↔ 分れ〈JRバス東北〉
- ・産業文化センター〈岩手県北バス〉 ↔ アピオ前〈岩手県交通バス〉
- ・家畜保健所前〈岩手県北バス〉 ↔ 盛農入口〈岩手県交通バス〉



▲名称が異なるバス停留所

バス停留所の名称を統一し、  
わかりやすい表示に改善  
【バス事業者と協議中】  
できれば  
バス停留所も一つに…

## 4 多様な主体と連携・協働プロジェクト

[施策4-1] 市民の公共交通に対する意識醸成

① 地域の公共交通を考える意見交換会等の開催



### ・市民を対象とした意見交換会の実施

市民の公共交通に対する意識醸成を図るとともに、地域における課題の共有や解決策を検討する意見交換会を小岩井地区で実施



▲H29.12.16 小岩井地区意見交換会（ワーキング状況） 25名の市民が参加



一過性のものにならないように定期的に実施する体制を整え、着実な意識醸成を図るとともに、意見・意向を把握する仕組みづくりを確立する

## 4 多様な主体と連携・協働プロジェクト

[施策 4-1] 市民の公共交通に対する意識醸成



### ① 地域の公共交通を考える意見交換会等の開催

## ・公共交通セミナーの実施（交通ジャーナリスト・鈴木文彦氏）

地域公共交通の現状や課題、これからのあるべき姿などについて、公共交通問題の第1人者である交通ジャーナリストの鈴木文彦氏を招き、市自治会長や市議会議員を対象にセミナーを実施。セミナーでは公共交通の積極的な利用を促すとともに、将来、地域が中心となって公共交通に関わる施策を自発的に展開することを啓発する。また、市民の前に行政職員が公共交通について知らなければならないところであり、市職員を対象とした同様のセミナーも合わせて実施



### 《 公共交通セミナー開催日が決定 》

- ① 平成30年2月22日（木）【対象：市自治会長】
- ② 平成30年2月23日（金）【対象：市議会議員、市職員】



## ・岩手県立大学生による調査・研究（小岩井地区意見交換会）

小岩井地区は「公共交通に何らかの形で関わりたい」と考えている住民の割合が市内で最も高いという市のアンケート結果を受け、小岩井地区について調査・研究をしたいと学生から申し出あり → 意見交換会を実施



▲H29.12.17 岩手日報掲載

**本日（2/9）、市地域公共交通会議でその結果報告について発表**



# 4 多様な主体と連携・協働プロジェクト

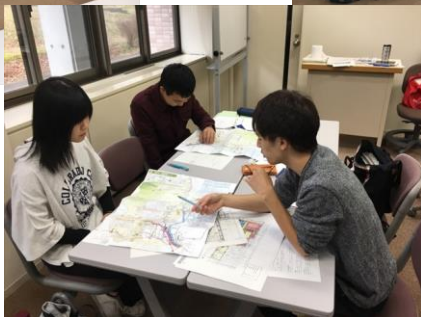
[施策4-2] 協働・連携による体制づくり

## ① 大学と連携した公共交通施策の展開



### ・岩手県立大学生による新たな公共交通施策の立案

網形成計画に挙げられている市の公共交通課題を取り上げ、その中からテーマを決め、実現可能な解決策を考え、市の公共交通施策として実行することを目的に学生3グループが企画などを立案



▲H29.12.22 岩手日報掲載（中間発表時）

**本日（2/9）、市地域公共交通会議でその検討結果について発表**



## ・市職員の盛岡方面への出張における路線バスの利用促進

市職員の盛岡方面（盛岡駅付近、県庁・合同庁舎など）への出張における移動手段のほとんどが公用車

実は平日の朝から夕方までは盛岡市方面へ向かう岩手県交通バスが20分～30分間隔で運行している（帰りも同じ）→ 意外と便利

→ 現行の市旅費制度で路線バスを利用した出張は可能であるが、手続き（伝票処理、後精算など）があるため、手続きが簡単な公用車を利用する職員が多い。積極的にバスを利用できる環境づくりが必要

市旅費制度を改定し、市職員が**バスカード**を利用した出張を可能とする

市職員の盛岡方面への出張における路線バスの利用促進を行い、職員自らが公共交通の利用機会を創出するとともに、日常的な公共交通の利用につなげる（市民に対しての公共交通利用の啓発、環境への負担軽減などのメリットも・・・）  
【平成30年4月から実施】